

## 5 軟化チェック方法

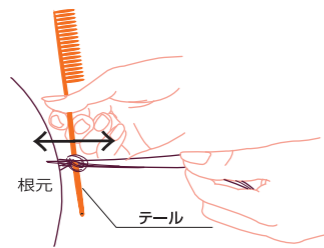
まずは動画を御覧ください。



BCA公式YouTube

動画で軟化チェックを詳しく見れます

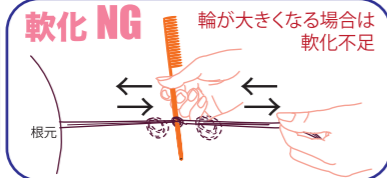
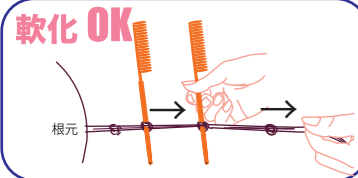
- 0:57 軟化チェックOK
- 1:26 軟化チェックNG



薬剤を拭き取った毛束で、玉結びの輪をつくる。輪の中にコームのテールを差込み、輪を根本側に移動し、毛束を少し引っ張り輪をテールにしっかり結びつけます。

左手は毛束を支えるだけにして、輪を軟化チェックしたい毛先側に移動します。軟化している場合は、輪がコームに巻きつきます。軟化不足の場合は、輪がフワッと大きくなります。輪が大きくなったら、再確認のために、毛束をひっぱり再度結びつけ、また引っ張るのを止めて輪が大きくなるかを確認します。玉結びが結びついたままであれば軟化OKとなります。

※ スライド中にコームを抜かないでください。毛先まで結び目を転がして結び目をほどくようにしてください。



## 軟化チェックポイント

軟化と膨潤は違います。【軟化】は必要ですが必要以上の【膨潤】は不要です。AWはアルカリ過膨潤が過度に起きづらい処方です。カラーなど施術ダメージ毛を縮毛矯正の際は、適切な前処理・毛髪強化剤を適切に併用することで、髪の強度をアップさせながら【過膨潤させずに】軟化を促すことができる環境に近づけます。そのため、毛束をコームに巻き付ける軟化チェックでは、軟化していても毛束は跳ね返り軟化不足と感ずる場合があります。慣れないうちは【薬剤塗布前の髪・薬剤塗布直後の髪】に軟化チェックを行い、軟化してない時と軟化してる時の比較を行うことを、おすすめします。

## 6 水洗 ⇨ グロス ⇨ 完全ドライ

1 液水洗後

アルカリ残存ゼロです。水洗後のシャンプー・酸リンスは、不要です。

乾かす前に

グロスを軽くかけ、髪になじませてから乾かしてください。

既ストレート済み部分に『メンテナンストリートメントストレート<1:1:1>』処理を施している場合

キューティクルをしっかりと閉じてから、リタッチ部の薬剤を水洗したいので、メンテナンストリートメントストレート部に、AFTERALLを塗布してから水洗してください。(αβの流出を防ぐと同時にリバウンド防止)

## 7 アイロンスルー

完全ドライ後に、行ってください

根元から毛先まで 180度。  
※メンテナンストリートメントストレートの時も同様です。

## 8 2剤塗布 ⇨ 5.6分放置後水洗

表3		2剤	配合比率表
髪状態		薬剤配合	
健康毛 (カラー無し)		AW2液	原液
カラー毛	ライトダメージ毛	AW2液	浸透水 = 2:1 (Ag+α 5%)
	ミドル～ハイダメージ毛	AW2液	浸透水 = 2:1 (Ag+α 10%)

髪状態『カラーリング有無』に合わせて2剤を下記表3から選び、塗布してください。

- ※ 原液でも、希釈した場合でも放置時間は同じです。
- ※ 配合する毛髪強化剤は質感アップのため、Ag+αの選択がベストです。(bca matrix+αでも対応可)
- ※ ハイダメージの時はβを入れることをおすすめします。

### お仕上げ

ハンドドライで仕上げてみてください。ブローやアイロンを無しでサラサラに仕上がります。ロールブラシなどでのセットも簡単に可能。

### Column 3 浸透水は必要? 最小限で最大の効果を出すためには必須です!

乾いた髪に、粘性のあるαβを原液で使用すると多量に使用してしまいます。そのため最小限のαβで最大の効果を与えるために浸透水で等倍に希釈します。

水道水や浄水器を通した水などは、伸びや仕上がりに影響を与える可能性が高いので使用をお控えください。コスト削減をしっかりとしながらクオリティアップをしたい場合には浸透水が必須になります。

## B C A 商材でのストレート施術の考え方

ダメージ毛～健康毛 / 細毛・軟毛・普通毛用  
- 自然な丸みで、艶やかに仕上げたい髪に -

白髪染めやカラー・ブリーチなどのダメージがある髪にストレートを行なう場合『過膨潤しやすい為、軟化するまで安心して放置ができない』とのお声をよく頂きます。そこでBCAでは、髪の部位やダメージによる反応状態のバラつきを極力無くし、安全に施術を進めるために**毛髪強化剤を併用していただく事**をおすすめしています。また、AWをベースに、他商材をあわせていただく事で、幅広い髪質と髪の状態に対応する事ができます。**アルカリの力に頼る事なく、毛髪強度をアップさせながら、過膨潤させずに軟化だけを促すストレート施術を目指しています。**

### 文中の商材について

### Caution 施術前の注意点 髪の毛はドライの状態

商品名	bca matrix+α	bca matrix+β	Aglaia+α	Aglaia イドラモイスト	Aglaia グロスプロテクション
略称	α	β	Ag+α	イドラ	グロス
分類	毛髪強化剤	毛髪強化剤	毛髪強化剤	保湿系・処理剤	保油保護系・処理剤

商品名	All Woman Sister's Band	Aglaia Straight ox	HELTER SKELTA	AFTER ALL	浸透水
略称	AW	Aglaia ox	HS	アフターオール	浸透水
分類	ストレート剤	ストレート剤	パーマ液	酸リンス (高保湿)	超純水

ドライの状態の方がクセの有無・ダメージ箇所など、毛髪状態の判断がしやすくなります。前回までの施術の伸び残しも把握しやすく前処理・薬剤の塗布ができるため、塗り残しや塗布範囲の間違いなどを防ぐことができます。  
※ AWは、アルカリ度0.28 (HSはアルカリ度0.3)と超微アルカリの為、ドライ毛に塗布ができます。逆にウェットで塗布をすると、伸びが悪くなる事がありますのでご注意ください。

### Column 1 どんな時に HS を使うの?

伸びづらい強いクセでハードスペックの薬剤が必要な髪の場合、還元力だけを高めるために『HS』を併用します。クセが強ければダメージがあってもαβの配合量を増やして『HS』を併用します。※アルカリ濃度0.3・チオ濃度11 (ジチオ含む) で低膨潤高還元な還元剤です。

### Column 2 どんな時に Aglaia ox を使うの?

撥水毛でキューティクルがしっかりしている髪や毛量が多く髪に厚みがある髪を、しっとり艶やかに一回り小さく仕上げたい場合には、キューティクルを開ける力が一瞬あるストレート剤の『Aglaia ox』を併用します。※細毛軟毛・ハイダメージには不向きです。

## 1 プレシャンプー後、完全ドライ

ドライで施術スタートする事でクセ状態・ダメージの状態を的確に把握できます。

### 絡んでいる髪のプレシャンには

『β』を混ぜてシャンプーすると、絡みがとれます。

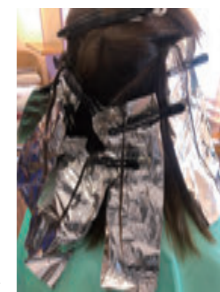
髪の長さ	シャンプー時に入れる量
ミディアム	100円玉1枚程度
ロング	500円玉1枚程度

## 2 カウンセリング ⇨ 毛髪診断 ⇨ 薬剤テスト

### 薬剤テスト方法

- 目立たないサイド・バック3箇所くらいから少量の毛束を何箇所か取りアルミを敷く (図1参照) ダメージムラが激しい場合は5箇所以上のテスト実施。
- AW1剤を原液塗布して様子を見ます。 (図1)
- 髪の状態に応じて反応が変わります。反応を目安に前処理を考え5分以上放置できる薬剤の選定・前処理と薬剤塗布範囲の基準とします。

薬剤テスト参考写真



### 薬剤テストした毛束は!

- ① 水をかけ薬剤をふき取る
- ② 必ずβを原液で塗布して髪を強化する。
- ③ STEP3に進む。

### CAUTION

#### 施術日の変更を推奨します

前日にセルフカラー (白髪染めを含む)・13トーン以上のカラーやブリーチなどを行なっている場合、髪に残留アルカリが多いため、仕上がりのクオリティが下がります。最低でも5日以上あけることをおすすめします。

### 薬剤テストをすべき状況

- 新規で、履歴が不明
- ダメージレベルの判断がしづらい
- ダメージなのかクセなのか、判断がしづらい

例えば、リタッチストレートのみの施術履歴なのに、既ストレート部が、バサつき広がるのでトリートメント施術を行ったが、綺麗にならず広がる、などの髪もダメージではなくクセのリバウンドかもしれません。それを見極めるために、薬剤テストを行います。

ダメージは、毛髪診断ミスによる失敗です。クオリティの高い施術提供のため・ダメージ防止のために薬剤テストを必ず行って下さい



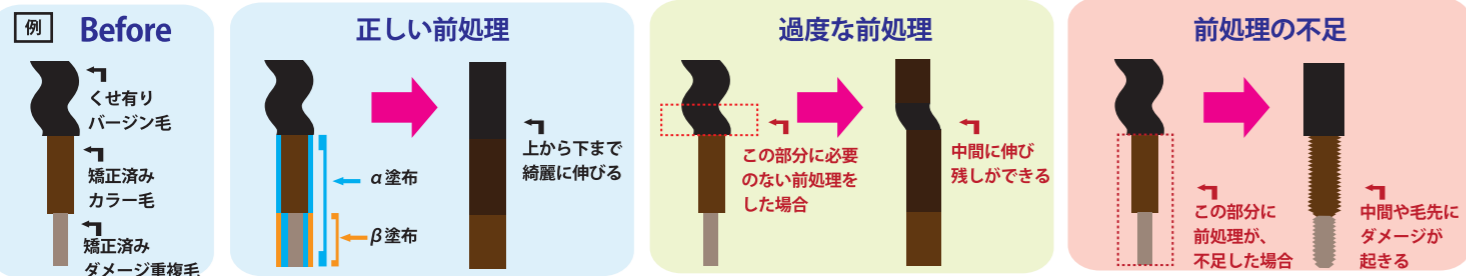
次ページの表1参照  
縮毛矯正未経験部から、「元毛質」と「ダメージレベル」が交差した箇所が調合の参考目安になります。

### 3 前処理 < ダメージで痩せている部分を強化する事で健康な部分の状態に近づけ、髪の強度を整える >

前処理① 乾燥しやすい表面と乾燥ダメージが目立つ箇所を、**イドラ**で保湿する。

前処理②	ダメージ状態	目安の履歴	前処理剤 配合例
前処理剤の選び方参考例	ライトダメージ	カラー・パーマ1~2回でクセ有	α: 浸透水=1:1
	ミドルダメージ	白髪染め毛 カラー・パーマ3~4回でクセ有	α:β: 浸透水=1:1:2
薬剤反応しやすいダメージ部に、薬剤テストで触診して判断した結果で毛髪強化剤αβをハケで塗布する。	ハイダメージ (ダメージ重複)	ミドルダメージ以上の履歴・セルフアイロン毛 ハイトン・ブリーチでクセ有り	上記処理+β原液重ね塗り
	ウルトラダメージ (危険ゾーン)	施術をしない箇所	β原液重ね塗り+AFTERALL 重ね付け (この前処理を3回程行い守る)
	メンテナンストリートメント予定部	縮毛矯正済で還元が不要な時	細毛 β: 浸透水=1:1 他 α:β: 浸透水=1:1:2

髪の強度を一定にしスタートラインを整えるには、前処理を行なう範囲とそこに合わせた適切な毛髪強化剤を選ぶ事が重要!



### 4 縮毛矯正未経験部 薬剤比率参考例

表の見方 ※横列「元毛質」と縦列「ダメージレベル」が交差した箇所が調合の参考目安になります。

撥水毛の強いクセの時 ※ AW → AW:Aglaia ox=1:1  
※より伸びにくい健康なくせの場合はHS①液塗布15分放置後、上記薬剤塗布のW還元も有

表1 ダメージがある状態でクセが強い場合は、過膨潤しやすく軟化するまで放置しづらくするため過膨潤しないよう毛髪強化しながら軟化するまで放置ができるように、αβを1液に配合します

元毛質 / ダメージレベル	球状毛捻転毛強いクセ	硬毛強いクセ	普通毛強いクセ	軟毛強いクセ	軟毛・普通毛弱いクセ	ゆるいくせボリュウムダウンバサつき髪質の改善
健康毛 ハードスベック	※ AW+HS 30~40%		※ AW+HS 20~30%	※ AW+HS 30%	AW単品~HS 10~20%	AW単品
	Ag+α使用可 α3~5% ※ジョイント部を強化し守る為 ※今回は新生部でも次回にはジョイント部になる為					Ag+α使用可
ローダメージ カラー・パーマ 施術履歴1~2回程度	※ AW+HS 30~40%		AW+HS 20~30%	AW+HS 20~30%	AW単品~HS 10%	AW単品
	Ag+α使用可 α5~10% ※配合することで、放置に伴う過膨潤を防ぎ、毛髪強化しながら安全に軟化を促せます					Ag+α使用可
ミドルダメージ カラー・白髪染め・パーマなどの 施術履歴3~4回程度	AW+HS 20~30%		AW+HS 10~20%	AW+HS 10~20%	AW単品~HS 5~10%	AW単品
	α10~20%		α+β10~20%	α10%+β10%	α10%+β10%	α15~20%
ハイダメージ ハイトンカラー・白髪染め ホームカラーなどの 施術重複ダメージ	AW+HS 10~20%		AW+HS 5~10%	AW+HS 0~10%	AW単品~HS 0~5%まで	AW単品
	α20~30%		α+β20~30%	α10%+β10%	α15%+β15%	α15%+β15%

自然放置 放置時間目安	ゆるいくせ毛	15~20分前後
※ 放置時間は長めですが、しっかり軟化させられるのでアイロンが楽になり、時間が大幅に短縮されます【最大45分反応】	少し伸びづらいくせ毛	25~30分 前後
	伸びづらいくせ毛	AW単品で30~45分放置 <HSを併用して時間短縮可能>
	ハードスベックが必要な強いくせ毛	HS・Ag OXを併用し、30~45分放置

HSを使わずAW単品に、αβ配合のみで時間を長めに放置すれば可能な領域。

放置中にビビリ発生時の応急処置  
薬剤テストをして問題がなかったとしても、全ての髪をテストしている訳ではないため、実際の放置中にビビリが生じる事もあります。万が一ビビリを察知した場合は、右記応急処置を行ってください。

- 1 薬剤をしっかりと、拭き取る。
- 2 βを原液でたっぷり塗布して髪を強化する。
- 3 AFTER ALL を塗布して薬剤進行をストップ

※ ホームケアでβ併用でシャンプーをする

### 表2 縮毛矯正経験部 & ビビリが心配なデリケート毛の薬剤参考例

髪状態	クセを伸ばす力の有無	薬剤比率参考例 ※髪状態に合わせてαのみ・βのみ、α+β	放置目安 トータル放置時間から逆算して塗布開始
※薬剤テストにて髪状態を見極めてください ●伸び残しのクセ(リバウンド)がある ●ブリーチ・ハイトーンカラーの繰り返しでハイダメージにもかかわらず、乾いた状態で弱いクセがある場合	有り	① AW: 浸透水: αβ 3: 1: 1	10~15分
●クセ(リバウンド)というより、ハネ・毛流れによるウネリ・耳のかけグセなどが気になる場合 ●ダメージしすぎて乾くとクセを表現できないが、ウェットになると微妙なクセができるような場合	有り	② AW: 浸透水: αβ 2: 1: 1	5~10分
●クセを伸ばす必要はない ●真っ直ぐでバサバサして質感が悪いが広がりは無い ●髪を強化し質感を上げて指通りをよくしたい場合	無し	「メンテナンストリートメントストレート」 AW: 浸透水: αβ 1: 1: 1	3~5分

既ST部の中間〜毛先の対処法  
リタッチストレートの場合



メンテナンス トリートメントSTの流れ  
この部分は**放置時間3~5分**でOKなので、リタッチ部の放置時間から逆算して塗布をスタートします。スタートする頃に最初に塗布した前処理部が乾いているので、浸透水を塗布して柔らかくほぐしてから1:1:1を塗布します。3~5分放置 ⇒ この部分のみ **AFTER ALL** を塗布し開いているキューティクルを閉じます ⇒ 全体を水洗

